

◎カルナクリン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】カリジノゲナーゼ kallidinogenase 【分類】循環障害改善剤

【単位】 ◎25・▼50 単位/錠

【常用量】 75~150 単位/日

【用法】 分3

【透析患者への投与方法】透析患者の投与方法に言及した文献はないが、減量の必要はないと思われる（5）

【保存期 CKD 患者への投与方法】腎不全患者の投与方法に言及した文献ないが、減量の必要はないと思われる（5）

【特徴】血液中のα2-グロブリン分画に属するキニノーゲンを分解し、キニンを遊離する。キニンは末梢血管拡張、微小循環速度の亢進を介して血流増加作用を示し、組織の代謝を改善する。特に脳の血管床に選択性が高く、四肢の末梢血管にも作用する。緩和な降圧作用を示すほか、加齢に伴うコレステロールの自然上昇の抑制、血清脂質の改善作用もある。

【主な副作用・毒性】過敏症、心悸亢進、胃腸障害、熱感、頭痛など

【tmax】 3hr (1)

【排泄】尿中に回収 [イヌ] (1) 【CL】2.5~3.3mL/min/kg (J Pharm Sci 85: 1238-41,1996)

【t1/2】 170min (J Pharm Sci 85: 1238-41,1996)

【蛋白結合率】データなし (1)

【Vd】 0.47~0.73L/kg (J Pharm Sci 85: 1238-41,1996)

【透析性】データなし (1)

【TDM のポイント】TDM の対象にはならない

【備考】特に規定はなされていないが、血管拡張作用があることを考慮すれば出血を伴う手術の2~3日前の中止対応も選択肢 (5)

【更新日】 20150902

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断複数・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。